2025 年の主な天文現象

1月	4日	0時 しぶんぎ座流星群が極大(HR=50)、条件良
	10日	金星が東方最大離角（-4.5等）
	12日	おすすめ！ 火星が最接近（距離約9,600万km、今回は小接近）
	17日	火星が衝（真夜中に南中、-1.5等、視直径14".6）
2月	15日	金星が最大光度（-4.9等、この頃、昼に肉眼で見るチャンス）
3月	5日	プレアデス星団の食（22～24時頃、月が星々を次々に隠す）
	8日	水星が東方最大離角（-0.3等、夕方に観察のチャンス）
	24日	土星環の消失（地球から土星の環を真横から見る）
4月	22日	水星が西方最大離角（+0.4等、明け方に観察のチャンス）
	27日	金星が最大光度（-4.8等、この頃、昼に肉眼で見るチャンス）
5月	5~6日	おすすめ！ 火星とプレセペ星団が接近
	7日	土星環の消失（太陽の光が土星の環に真横から当たる）
6月	1日	金星が西方最大離角（-4.4等）
7月	4日	水星が東方最大離角（+0.5等、夕方に観察のチャンス）
8月	13日	05時 ペルセウス座流星群が極大(HR=40)、条件悪
	16~17日	プレアデス星団の食（23～01時頃、月が星々を次々に隠す）
	19日	水星が西方最大離角（0.0等、明け方に観察のチャンス）
	29日	旧七夕（伝統的七夕の日、旧暦7月7日）
9月	8日	おすすめ！ 皆既月食（8日未明～明け方の空、皆既継続時間1時間23分）
	22日	土星が衝（真夜中に南中、+0.6等、視直径19".4）
	24日	海王星が衝（真夜中に南中、+7.7等、視直径2".4）
10月	6日	中秋の名月（満月は翌7日）
	30日	水星が東方最大離角（-0.1等、夕方に観察のチャンス）
11月	2日	後（のち）の月・十三夜
	21日	天王星が衝（真夜中に南中、+5.6等、視直径3".8）
12月	8日	水星が西方最大離角（-0.4等、明け方に観察のチャンス）
	14日	17時 ふたご座流星群が極大(HR=60)、条件良
31～1/1		おすすめ！ 年が変わるころ、月とプレアデス星団が近づいて見えている

皆既月食
9月8日の未明から明け方（＝7日の夜更け以降）に、月が地球の影に入り込む皆既月食が観察できます。皆既の状態が1時間半近くも続くので、じっくり楽しむことができるでしょう。赤みがかった不思議な色合いの月や、月明かりがなくなって たくさんの星が見える空全体の様子にも注目してみてください。

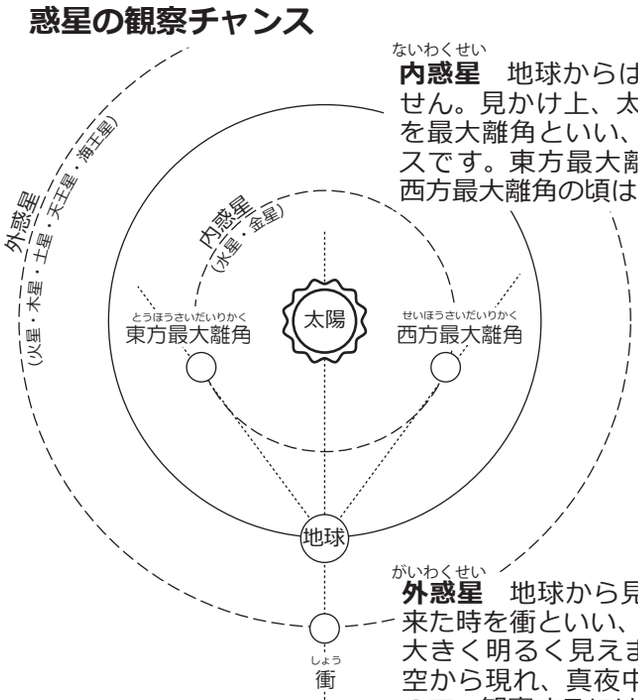
部分食の始まり　01:27
皆既食の始まり　02:30
皆既食の終わり　03:53
部分食の終わり　04:57

※時間はどこでも一緒です。

月が星を隠す・星食（せいしょく）
月が星空の中を巡るうちに星を隠すことがあり、星食と呼ばれています。今年は星々の集まり・プレアデス星団（すばる）の食が見られ、条件が良いのは3月5日と8月16~17日です。また大晦日から元日にかけて、ちょうど年が変わるころには月とプレアデス星団がとても近いところに並んでいます。深夜に初詣に出かける際には双眼鏡を持っていき、行く年来る年に思いをはせて眺めてみては。

金星が昼間にも見える？
金星は普通の一等星の100倍以上明るくなるので、条件が良いと昼の青空でも肉眼で見つけることができます。１～2月頃には太陽の東側で、４～５月頃には太陽の西側で見られるチャンスです。最大光度の日だけではないので、晴れた日には挑戦してみましょう。

惑星の観察チャンス



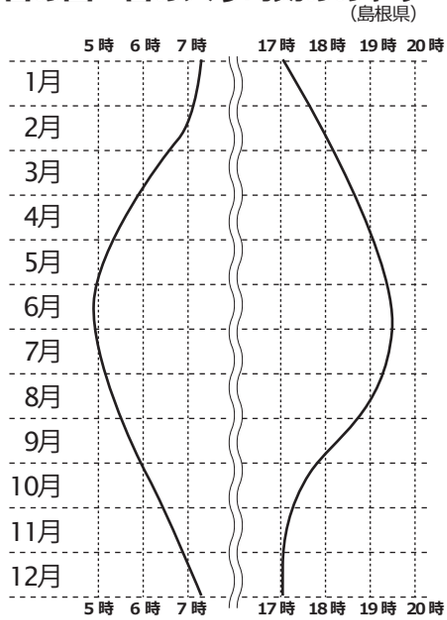
内惑星　地球からは太陽の近くにしか見えません。見かけ上、太陽からもっとも離れた時を最大離角といい、この前後が観察のチャンスです。東方最大離角の頃は夕方の西空に、西方最大離角の頃は明け方の東空に見えます。

※惑星が見かけ上太陽と同じ方向になる時を、合（ごう）といい、この前後は観察ができません。

外惑星　地球から見て太陽の正反対の位置に来た時を衝といい、地球との距離が近いため、大きく明るく見えます。また、日没後に東の空から現れ、真夜中に南中し、明け方に沈むので、観察するにはもっとも適した頃です。

日の出・日の入り時刻のめやす

（島根県）



日の出前、日の入り後の約１時間半ほどは薄明となり、完全に暗くはなりません。